犬上川南流漁場の水温モニタリング調査

吉岡　剛

１．目　的

県内河川漁場では、アマゴ・イワナ・ニジマス・アユ等が漁業権魚種に設定されている。

近年、夏期に猛暑日が続き、河川が渇水になる状況が見られ、河川水温が以前より上昇している可能性が考えられる。

効果の高い種苗放流を行うには、魚種ごとの適水温を考慮する必要がある。そこで、犬上川南流漁場について、夏期の水温モニタリングを実施した。

２．方　法

令和５年４月 28 日に、犬上川南流の上流・中流・下流の３地点にデータロガー(ONSET 社製 HOBO Pendant Data Logger UA-002-64)を設置し、１時間毎の水温を測定した。

水温測定地点は、上流が犬返橋(多賀町萱原)、中流が一ノ瀬橋(多賀町川相)、下流が大滝小学校前(多賀町川相)とした(図１)。

ロガーは、令和５年６月１日、７月 20 日、９月１日、11 月９日に回収・交換し、回収したロガーから水温データの読み込みを行った後、日間最高水温を抽出した(図 2、図 3、図 4)。

３．結　果

調査期間を通じての最高水温は、犬返橋(27.3℃)、一ノ瀬橋(26.5℃)、大滝小学校前(25.6℃)であった。犬上川北流の水温は夏場でも 20℃前後であり、北流と南流の合流点より下流である大滝小学校前の最高水温が最も低い結果となった。

各地点とも、25℃を超える日が数日確認されており、アユの放流に適していると考えられた。

なお、８月中旬に台風による増水があり、水温の大幅な低下が見られた。

図１　データロガー設置場所

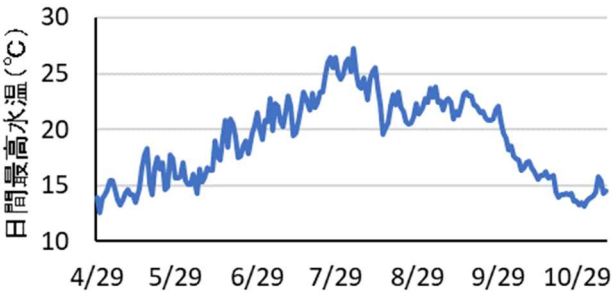

図2　犬返橋の日間最高水温推移

図3　一ノ瀬橋の日間最高水温推移

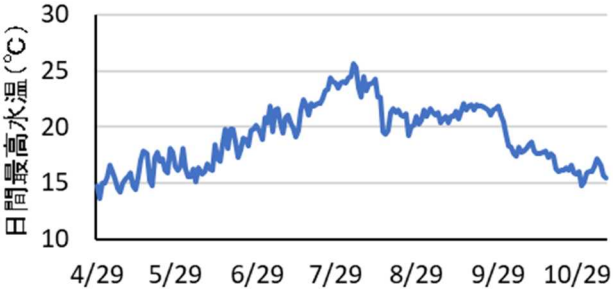

図4　大滝小学校前の日間最高水温推移